

(様式3)

## 自己評価結果票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>・「地域の人に支えられ、歩いて行こうゆうゆうで」という言葉を職員間で考え、理念として玄関に掲げてある。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>「入居者が職員と共に楽しみを持ち、自分らしく暮らせるホームを目指します」</p> <p>・解かりやすい、言葉で新たにホームとしての理念を作り、これから職員全員が実現に向けて取り組んでいく。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>・理念は、ホームの玄関に掲げ、広報誌には掲載している。</p>	<p>印 (取り組んでいきたい項目)</p> <p>・ホームページは、現状では進んでいないが、今後載せていきたい。運営推進会議でも理解してもらえよう、伝えたい。</p>
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>・地域の方に畑の苗の植え付け支援、指導などの関わりを持っている。</p> <p>・併設のデイサービスの利用者の訪問や民生委員の方々の訪問があり職員も日常の会話が出来るようになっている。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>・職員は地区のクリーン作戦に年2回参加している。</p> <p>・地域文化祭に入居者の作品を出品し、見学に行っている。</p> <p>・地域ボランティアによる蓄音機貸し出し、活動写真による映画鑑賞、習字、朗読等。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・地元学生のボランティアの受け入れを行っているが、高齢者の暮らしに役立っていることは、まだ取り組めてない。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・グループホーム会議時に、職員全員に説明し、理解を深め、検討している。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・H20年8月・H20年11月・H21年2月・H21年6月に実施。地域民生委員、家族、入居者を交え報告、意見交換をおこなっている。家族、参加者からの率直な意見があり、職員間で話し合っている。		
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・町へ出向き、質問や相談など行い、アドバイスをもらっている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・職員研修において学び、理解を深めている。又、新しい職員に対しては、理解が出来る様に冊子を置いている。 ・成年後見制度については、1名の引き受け人より協力要請があり、支援おこなう。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・職員研修及び接遇研修に置いて学び、職員の資質向上に努めているが、ホーム内で日常、無意識に行っていないか、職員間で確認しあっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4.理念を実践するための体制</b>			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>・入・退去時に、本人、家族への説明を行い、理解、納得を得るとともに相談などにはアドバイスを行っている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・苦情受付担当者を契約書及び重要書類に明記し、苦情報告書で解決に向けて取り組んでいる。</p> <p>・入居者の苦情や意見に対しては、日常生活の会話の中で、話せるように接し、必要時にはその都度、会議などで話あっている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>・月初めに一回、心身の状態及び、生活の様子などを家族に送付している。</p> <p>・電話連絡又、訪問時に入居者の健康状態の異変や職員異動については、報告、相談を行っている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・(13・14項目と同様)又運営推進会議、家族会の集まりの際に意見や苦情、要望を出して頂くよう時間を設けている。</p>	<p>印 (取り組んで いきたい項目)</p> <p>・年一回、家族が集って頂く日を設け、そこで、意見、苦情、要望を出して頂く。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>・毎月のグループホーム会議で、職員の意見や提案を、聞く機会を設けている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>・病院受診で家族が付き添えない場合や行事に合わせた勤務体制。</p> <p>・入居者の要望に応じた外出などに合わせた、勤務体制の確立。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新職員採用時、リーダー職員と共に勤務に就き、入居者の理解やコミュニケーションが図れるように努めている。</li> <li>・職員離職時にも、あまり早くから伝えないようにしている。</li> </ul>		
<b>5.人材の育成と支援</b>				
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月一回の法人内での職員研修、外部での新人研修、リーダー研修に取り組んでいる。</li> <li>・職員は地域のケアステーション主催の勉強会に自主的に参加している。</li> </ul>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内GH連絡協議会(3グループ)を、2ヶ月に一回開き、情報交換、意見交換を行っている。</li> <li>・入居者も交えての、意見交換も行っている。</li> </ul>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・併施設設共に、新人歓送迎会、新年会、忘年会を実施している。</li> </ul>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人事考課を導入し、職員に対しても自己評価を行っている。</li> </ul>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>・事前面談を行ってはいるが、入居後に少しずつ本人の会話の中で、困っていること、求められていることを聞き出すのが、現状である。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>・家族との面談は居室で行い、訪問時などの声掛けにはこちらから行き、話やすい雰囲気になるように環境を整えて、取り組んでいる。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>・ケアマネ、行政を含め利用支援を積極的に行えるように、努めている。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>・併設特養でのショート利用などの入居試用期間を導入している。納得され入居されているが、時には不安、不穏があり雰囲気に馴染まれないときがある。その際には、家族と相談しながら支援をおこなっている。</p>	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>・四季折々に、昔ながらの生活を、入居者から学び、教えて頂き、支えあう日々の関係を築いてある。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	利用者を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケアプラン見直し時に、家族の希望、要望を取り入れ計画を行っている。</li> <li>・任せきりの家族に対しても、連絡を行い日々の生活状況を伝えている。</li> </ul>		
29	利用者と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの利用者と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケアプラン立案時、家族訪問時に家族の希望、要望を取り入れ、利用者の生活を共に支えていく関係を築きつつある。</li> <li>・任せきりの家族に対しても、日々の状況を伝えている。</li> </ul>		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援  利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ地域、又近所の人々の訪問時には、話しやすい環境を提供している。</li> <li>・地元、寺院の参拝や知人との手紙のやり取りの支援。</li> </ul>	印 (取り組んでいきたい項目)	・今後、商店街、行きつけの場所へ出かけられる支援を行いたい。
31	利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者同士で自然とレクなど始められる環境、関係が出来ているが、身体的状況、気分的に出来ない人たちに対しては、入居者同士で、声掛け、気遣いができている。</li> </ul>		
32	関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長期入院の為退去となった元入居者に対して、職員・入居者と共にお見舞いを行っている。</li> <li>・退去後不幸にして亡くなられた、入居者の通夜、告別式に可能な限り、職員は参加している。</li> </ul>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1.一人ひとりの把握</b>			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>・日々の生活の関わりの中で、希望、意向を聞いている。困難な場合には、家族に聞きながら検討、支援を行っている。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>・入居時のアセスメントにて、本人及び家族の訪問時に聞き把握している。又日常会話の中で得た生活歴、生活環境などの情報は、ケアカンファレンス時に情報交換を行っている。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>・日常生活動作記録や引継ぎ帳により入居者の状態を把握するように努めている。又新職員が加わった為、再度入居者の有する力等の現状を検討行う。</p>	
<b>2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>・ケアプラン作成については、本人、家族の希望、意見を取り入れている。ケアカンファレンスにおいては職員の意見も反映している。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>・3ヶ月ごとに見直しを行う。又身体状況の変化が生じた場合は、家族、職員と話し合い、新たな計画を行っている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>入居者の個別記録、及びケース記録を作成している。</li> <li>引継ぎ帳に、記録、伝達を記入し共有に努めている。</li> </ul>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>併設特養への行事参加などで交流がある。</li> <li>家族の希望で入居者と共に居室に宿泊する事は可能である。</li> </ul>		
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>習字教室、朗読ボランティア、外出ボランティアなどの協力の他、民生委員の訪問がある。</li> <li>町の文化祭への入居者、作品出品。</li> <li>消防署の指導により消火訓練(年2回)。</li> </ul>		
41	他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>神河町運営推進会議、GH連絡会などで、他事業所、行政などのサービスを把握し、交流を深めている。</li> </ul>		
42	地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	<ul style="list-style-type: none"> <li>入居者の家族が地域包括支援センターで相談された事について当センターより連絡頂き、後日事情説明に出向き、家族の疑問について解決する様に、話合うことが出来た。又家族にも理解して頂く。</li> </ul>		



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援  利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・入居時にかかりつけ医を確認し、受診を継続しているが、緊急時はご本人家族の同意を得て、ホームの協力医院に受診していただいている。		
44 認知症の専門医等の受診支援  専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	・協力医療機関としての病院があり、認知症の症状に応じて受診、又相談に応じてもらっている。 ・近隣に、認知症に理解のある、歯科医院があり入居者の多くは利用している。		
45 看護職との協働  利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	・併設特養の看護師に緊急時の対応、処置の仕方についてアドバイスをもらっている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働  利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	・入居者が入院した場合、面会などで病院での状態を把握し、必要時には病院の関係者と話し合い退院に備えている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・入居者の中には、早い段階で終末期のあり方についての相談が、本人、家族からあり職員間で確認し合っている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援  重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	・重度者に対して、医療の必要性が発生した場合は家族と共に支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>・該当者はいないが、いつでも情報提供できるように家族、職員間での話し合いは、できている。</p>		
<p><b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p><b>1. その人らしい暮らしの支援</b></p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>・入居者の個々に応じた、援助を行いながら、プライバシー保護には心がけている。</p> <p>・個人情報記録は、外部、入居者の目にふれない場所に保管している。</p> <p>・職員は、採用時に守秘義務について、誓約書を提出している。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>・日々の会話で、入居者の思い、希望を引き出せるように努めている。又、認知症の進行によって意思表示がうまく出せない、入居者に対しては、表情や行動を把握し、確認している。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>・入居者、一人ひとりの生活ペースの希望に添うように、支援できている。</p> <p>・外出希望者には出来る限り、希望に添って支援できている。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>・入居者の中には、家族と一緒に掛けた際に理髪店でして帰られる方もおられるが、併設施設での美容サービスにいかれる。</p> <p>・入居者の中には、毎朝薄化粧し出てこられる。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・季節を味わいながら、その時々献立を入居者の皆さんと、考え取り入れてある。 ・食事作りには、野菜の皮むき、お米とぎなどの役割ができています。		
55 利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・午前、午後のおやつ時の、ご自分の飲み物を用意され、又、入れられない入居者は職員が支援している。(好みのコーヒーで、飲んでいただいている) ・おやつに関しては、併設施設より販売に來られ、好みのものを、購入できるように支援している。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・個々に応じた、排泄のパターンを把握し、トイレ誘導、声掛けに努めている。又排泄後には、ホットタオルでの清拭を行い、清潔保持を支援している。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・入居者は、一日おきの午後2時～4時の間の入浴となっているが、中には声掛けに応じられない場合は、タイミングに合わせ、朝から入浴される場合もあるし、入居者の希望で毎日、入浴される場合もある。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・数名の入居者は、食後、居室にて休息される。 ・室温、寝具の調節に努め、安眠できるように配慮できている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・入居者の個々の能力、過去の職業にあわせた役割や楽しみを持てるように、支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援  職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居者自身でお金を管理されている方が一名。</li> <li>・預かり金にて管理している方が四名。(出納帳に記載、出金時には、家族に報告している。)</li> <li>・その他、家族希望もあり、ホーム立替金にての買い物して頂き、利用料として請求している。</li> </ul>		
61	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外気浴、ラジオ体操を戸外で行ったり、気晴らしの為、併設特養へ散歩に出かけられる支援をおこなっている。</li> </ul>		
62	普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居者の希望で、この時期(6月～7月)にしか、咲かない沙羅の花を見学し、1F入居者と共に、出掛けられる。</li> <li>・家族と共に外出できる機会を支援している。</li> </ul>		
63	電話や手紙の支援  家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電話、手紙のやり取りの支援はできている。又ご自身で、電話出来ない、入居者に対しても、支援している。</li> </ul>		
64	家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族、地域の方々が訪ねてこられる。その際入居者の居室、DRなどでお茶を飲みながら、歓談されている。</li> </ul>		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員研修会において話し合い、日々のケアに活かしている。又拘束的な言葉がけにならないよう、職員同士で気をつけている。</li> </ul>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・2Fは、日中玄関、DR、掃きだし窓、ドアはカギを掛けてなく、出入りは出来るが、職員全員で常に見守る状態である。但し施設玄関は暗証番号で出られているのが、現状である。		
67	利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・常に入居者の所在は、職員誰もが、居場所の確認を把握し、居室で休まれている場合でも、訪室し様子を伺っている。夜間は巡回にて様子確認している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・自己管理の出来る入居者においては見守りを密にしながら管理をしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・事故が起こった場合は、事故報告書にて報告し職員間で、話し合い検討おこなう。 ・職員研修会で話合っている。		
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・職員研修会で、応急処置、心肺蘇生に参加し訓練行っている。 ・普通救命講習1を修了している。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・消防署の指導のもと、消防訓練、避難訓練を実施している。 ・毎月、防災設備点検を職員で行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	・家族、訪問時に普段の行動を知らせ、日頃の様子を話す中で、起こりうるリスクについても説明し、対応策を話しあっている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・毎日の定期バイタル測定で、体調変化に気をつけている。又、身体の異変に気がついた時には、他の職員と一緒に確認し、対応を速やかに行うように努めている。		
74	服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・入居者個人ケース記録に添付しており、職員が確認できる様にしてある。又、服薬の際には、再度袋の名前を確認し、誤薬のないように努めている。 ・理解できない薬に対しては、薬局に連絡し確認している。		
75	便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・医師の指導のもと、便秘薬で調整を行っている入居者がいる。又毎日の食事の中に野菜を多く取りいれたり、身体を動かす支援を行っている。		
76	口腔内の清潔保持  口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・毎食後の口腔ケアの声掛けを行っている。又自分で出来ない方については、一部介助を行っている。		
77	栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・献立作成時に、偏りのない栄養バランスの確保に努めている。又、食事摂取量、水分摂取量を記録し参考にしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	・感染対策委員会、対策マニュアルの設置及び予防接種の実施支援を行っている。(今回の新型インフルエンザ対策委員会を併設施設看護師、職員で3回開催し検討行う。)		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・食材は、一日置きで購入で使用している。 ・台所はアルコール消毒、ふきんについてはハイター消毒、食器は、熱消毒を毎食後行っている。 ・食中毒対策マニュアルの設置。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・玄関は安全性を重視し手すり、スロープを設置した作りとなっている。 ・玄関、2Fベランダに季節の花を植え、安心して親しみを感じられる様、工夫している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・玄関、居間、廊下、などには季節の花、居室には壁の装飾などに、季節感が感じられるように工夫してある。 ・天窓からの柔らかな日差しを感じていただける。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・共用スペースの窓際にソファ、イスを設置する事により一人ひとりの居場所が確保されている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居者それぞれの状況や希望により、好みの家具や寝具、物品を入れている。身体状況により、畳をいれ安全に配慮している。		
84	換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・居室には、冷暖房、24時間対応換気システムを完備し、気温に応じて職員が支援している。 ・年2回共有スペースの換気扇のフィルター掃除を行い、快適に過ごせるようにしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・玄関から廊下へと手すり設置、浴室、トイレに必要なところに手すりを取り付けてある。床はクッションフロアで転倒の際の衝撃が少ないよう配慮され、バリアフリーとなっている。 トイレは4箇所あり、居室からすぐに行けるようになっている。		
86	わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・入居者一人ひとりに応じた対応を心がけ、訴えや思いには出来る限り耳を傾けるようにしている。 トイレには文字表示、声かけや手本を見せながら対応している。		
87	建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・ホーム横の畑には、野菜を栽培し、収穫の喜び、味わう喜びを感じて頂いている。 ・天気の良い日には、プランターの花に水やりや、ベランダを歩行されるように支援している。		

(  部分は第三者評価との共通評価項目です )



. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)